

【調査票】プログラム評価に基づく、閉じこもり予防活動に関する調査票

記入方法：各項目の質問及び具体的な項目を確認し、該当する場合はチェックをつけてください。

注意点：訪問支援は、他機関のサポートや後方支援で同行訪問されるものも含まれます。

略語：地域包括支援センター→「包括」

A. 【基盤】支援の理念・方向性の共有及び権利擁護

A-1 地域の高齢者に対する、支援における理念と方向性の明確化と共有及び権利擁護

- |   |  |    |     |                 |
|---|--|----|-----|-----------------|
| 1 | 各関係機関は、「地域在住の高齢者が地域とつながりを持ちながら最後まで住み慣れた場所で生活を送ること」を、支援の方向性として掲げている           | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 2 | 地域在住の高齢者への支援の基本として、「本人・家族のセルフケア能力の向上」が重要視されている                               | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 3 | 「本人・家族のセルフケア能力の向上」を実現するためには、支援者全員が「共に関わりあい、支えあえるまちづくり」を推進することが重要であることを共有している | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 4 | 権利擁護（合理的配慮・障害者の人権など）の視点から支援が必要だと思われるケースがあった場合は、包括に報告される体制がある                 | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 5 | 高齢者虐待防止ネットワークを基盤とした連携・協力体制が整備され、会議、研修会、ケース検討会等が定期的開催されている                    | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |

A-2 個別支援が必要なケースに対する支援のマネジメント

- |    |  |    |     |                 |
|----|--|----|-----|-----------------|
| 6  | 個別支援が必要なケースの一覧表が、包括内で共有されている                                 | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 7  | 個別支援を行っているケースについて、包括内で、規模に関係なくケース会議が実施されている                  | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 8  | 個別支援を行っているケースのマネジメント担当者は、ケースが集団支援活動に参加する意義と目的を、対象者と共有している    | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 9  | ケースが集団支援活動に参加する意義と目的を、集団支援活動を実施する支援者全員が共有している                | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 10 | 権利擁護（成年後見制度等）を利用しているケースの場合、サービスの利用はケース自身が決定している、又は決定できる体制にある | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |

## B. 【基盤】サービス提供組織及び連携と評価体制

### B-1 組織体制、組織構造、各組織の役割の検討と共有・組織風土、リスクマネジメント

|  |    |     |                 |
|--|----|-----|-----------------|
| 11 組織体制の全体像を、包括スタッフ全員が把握している                               | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 12 組織構造の全体像を、包括スタッフ全員が把握している                               | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 13 組織の各部署や担当者の役割を、包括スタッフ全員が把握している                          | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 14 包括は地域包括ケアシステムの効果的な提供を行うため、外部の関係機関とその役割について、支援者全員に周知している | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 15 支援の在り方について自由に検討できる、風通しの良い組織風土である                        | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 16 組織的に活動する上で、重大な影響を及ぼす可能性（リスク）を把握している                     | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |

### B-2 権利擁護・技術向上・情報連携・評価体制・リーダーシップ・予算（システム）

|  |    |     |                 |
|--|----|-----|-----------------|
| 17 包括は、包括スタッフに対して、権利擁護（合理的配慮・障害者の人権など）についての教育を実施若しくは受講できるよう環境を整えている    | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 18 包括は、組織の強みと弱みを包括の管理職やスタッフの間で共有できている                                  | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 19 地域包括ケアシステムの効果的な提供の実現と支援技術の向上のため、外部の関係機関と現状を共有し、対策を検討する体制（ケース会議等）がある | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 20 住民や関係機関と検討した課題と対策に基づき、個別ケースの解決に向けた活動がタイムリーに検討・実践できる場がある             | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 21 個別ケースの解決に向けた活動を、随時確認、検討、モニタリングするなど、評価する場がある                         | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 22 包括は、地域にどれくらい閉じこもりの人がいるのかを把握している                                     | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 23 個別ケースの解決に向けた活動の評価結果を、支援に関わる組織全体に報告し、議論・検討する場がある                     | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |

|    |   |    |     |                 |
|----|---|----|-----|-----------------|
| 24 | 地域包括ケアシステムの効果的有機的な提供を実現するため、各部署の責任者による連絡会議等が年1回以上定期的に行われている | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 25 | 専門性を高め、効果的な取り組みを行うために、外部から客観的な意見を取り入れている                    | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 26 | 包括の管理者は、閉じこもり予防を実現するため、包括スタッフ・関係機関・協力者・地域を巻き込むための対話を行っている   | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 27 | 包括の管理職は、社会やニーズの変化に組織がどう対応するかに関する方向性を、包括スタッフに明示している          | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 28 | 支援活動に必要な予算が確保されている  | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |

### B-3 地域資源の開発・地域ボランティア育成支援活動

|    |   |    |     |                 |
|----|---|----|-----|-----------------|
| 29 | 地域に必要な社会資源の企画・開発を行っている  | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 30 | 地域の支援ボランティアを養成する講座を開催若しくは受講できるよう環境を整えている                        | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 31 | 地域の支援ボランティアに対して正当な報酬を支払っている                                     | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 32 | 地域資源やボランティアが緊急時に包括に連絡できるなど、お互いに協力し合える体制がある                      | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 33 | 地域の支援ボランティアなどが活動する場として、対象者の個人情報に深く関与しない場や役割が整備されている             | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 34 | 包括は、地域の支援ボランティアなどが閉じこもりなどの要支援者を暖かい眼差しで見守り、要支援者と関係を構築できるよう支援している | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 35 | 地域の支援ボランティア同士が、活動内容、課題や悩みなどを語り合う場を設定している                        | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |

### B-4 包括スタッフの確保及び育成（人材）

|    |  |    |     |                 |
|----|--|----|-----|-----------------|
| 36 | 「地域在住の高齢者が地域とつながりを持ちながら最後まで住み慣れた場所で生活を送ること」というミッションを達成する上で、理想的な人材像が明らかになっている | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 37 | 包括スタッフ育成の方向性などが、包括の組織内全体で共有されている   | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |

|    |   |    |     |                 |
|----|---|----|-----|-----------------|
| 38 | 包括スタッフとして、性別や障害者など多様な人たちを受け入れる体制が整っている  | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 39 | 包括は、包括スタッフが一人ひとりやりがいをもって、いきいきと働き、ミッションの実現に貢献するための環境を整備している                          | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 40 | 包括は、包括スタッフ一人ひとりの成長を、組織的にサポートしている  | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 41 | 包括は、包括スタッフのやる気を引き出し、定着率を高めている   | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 42 | 「地域在住の高齢者が地域とつながりを持ちながら最後まで住み慣れた場所で生活を送ること」というミッション達成のため、上記以外で、人材の育成にむけた取り組みが行われている | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |

### C. 【基盤】支え合う地域への醸成へ。地域住民と協働で作り上げる地域づくり

#### C-1 地域住民への情報提供、検討の場、見守り体制

|    |   |    |     |                 |
|----|---|----|-----|-----------------|
| 43 | 地域住民や関係機関は、包括が介護予防活動を行っていることを知っている  | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 44 | 地域包括ケアシステムの効果的な提供を実現するために、住民と共に現状を共有し、対策を検討する場がある   | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 45 | 地域包括ケアシステムの中に、地域全体で見守りを行う仕組みがある   | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 46 | 地域包括ケアシステムの中に、閉じこもりの解決後に継続的にモニタリングする仕組みがある  | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 47 | 地域住民は、近所の方々を暖かい眼差しで見守り、共に支え合う地域が重要であることを地域全体で確認し、共有している   | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 48 | 地域住民は、ケースには様々な背景があって現状がある、「周囲が対応に困る人は、支援が必要な困っている人」であり、支援が必要な人であるという捉え方をしている。<br>要支援者の例) 閉じこもり、セルフ・ネグレクト、ごみ屋敷、体調不良の方、最近見かけない等 | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 49 | 「地域で支えあう」ということについて、住民対象に研修や健康教育を行っている   | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 50 | いろいろな会合に、同じ人ではなく、多くの住民が参加できるよう工夫している  | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 51 | 地域住民は、日中独居の方を気にかけて、可能であれば挨拶など声をかけている  | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |

## D. 【活動】地域及び関係機関との有機的な連携を基盤とした、ケースの把握と支援体制の整備

### D-1 ケース把握に必要な知識や情報の周知

|   |    |     |                 |
|---|----|-----|-----------------|
| 52 ケースとして、気にかけるべき人の状態とする基準が、関係するすべての支援者及び地域住民の間で共有されている | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 53 ケースとして、気にかけるべき人の状態に関する勉強会がある                         | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 54 ケースを把握したら、包括に報告することが周知されている                          | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 55 ケースを把握した者が、包括に相談する上で心理的障壁がなく、連絡しやすい状況にある             | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 56 サービス利用について相談された機関は、随時包括と情報共有できる体制にある                 | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |

### D-2 個別支援が必要なケースに関する支援体制

|   |    |     |                 |
|---|----|-----|-----------------|
| 57 包括の担当者に、ケースの情報が一元化されている                              | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 58 作成された支援計画をコアとなる関連機関と共有し、支援内容を検討する場がある                | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 59 作成された支援計画に基づいて、サービス提供をする体制がある                        | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 60 支援計画に基づいたサービスが提供されているか、定期的にモニタリングを実施している             | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 61 訪問支援などの外出先で判断に迷った時、タイムリーに相談できる体制がある（その場で電話をして相談できる等） | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 62 必要に応じて、カンファレンスに家族が参加できる体制がある                         | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 63 包括担当者と関係機関が顔合わせできる場がある                               | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 64 包括担当者は、関係機関等からの情報提供を受け、タイムリーに支援計画を見直し、修正できる体制にある。    | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |

|    |   |    |     |                 |
|----|---|----|-----|-----------------|
| 65 | セルフ・ネグレクト状態で生命の危機が考えられる場合は、家族等に関する情報に関して、戸籍や住民登録等の住基データを照会するなど、情報収集するための環境が整っている（条例等の設置等） | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
|----|---|----|-----|-----------------|

**E. 【活動】 ケースへの丁寧な支援展開**

**E-1 ケースへの支援チーム結成と支援の実施**

|    |   |    |     |                 |
|----|---|----|-----|-----------------|
| 66 | ケースへの支援を一元的に検討・協働するため、コアとなる関係機関との支援体制（以下、コアメンバー）を、タイムリーに整えられる         | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 67 | コアメンバー以外で支援に必要なメンバーを、コアメンバー内で検討し選定している                                | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 68 | ケースごとに支援チーム（＝コアメンバー＋その他支援メンバー）が結成されている                                | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 69 | 支援チーム内で支援の方向性を共有・検討している   | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 70 | 支援チームごとに、それぞれメンバーの役割が共有されている  | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 71 | 支援チームは、直接関わることが困難なケースでも、粘り強く関わりを試みている                                 | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 72 | 支援初期において、支援チームは頻回訪問でケース宅の様子の変化を観察している                                 | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 73 | 支援チームは、生活や外出が困難である原因をアセスメントしている（予測も可）                                 | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 74 | 支援メンバーは、ケースの栄養状態等や体調異変など疾患管理の状況を把握するよう努めている                           | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 75 | 家庭訪問時、近所や大家さん等、近隣住民から様子を聞き取る等の情報収取を行っている                              | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 76 | セルフ・ネグレクト状態等で健康状態の悪化が予測されるがケースが受診に応じない場合は、医師による往診を依頼し、在宅で診察を受けることができる | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |

**E-2 ケースの家族に対する個別支援**

|    |                           |    |     |                 |
|----|---------------------------|----|-----|-----------------|
| 77 | 支援チームは、家族を対象とした訪問支援を行っている | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
|----|---------------------------|----|-----|-----------------|

|   |    |     |                 |
|---|----|-----|-----------------|
| 78 支援チームは、ケースの現状に対して家族がどう捉えているかを把握している                    | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 79 支援チームは、ケースと家族との関係性をアセスメントしている                          | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 80 支援チームは、同居家族以外のキーパーソンの有無を確認している                         | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 81 包括担当者は、家族に対して、疾患や今後の変化や関わり方に関する心理教育を実施、又は受講できる環境を整えている | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 82 家族は、包括や関係機関に直接相談できる                                    | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 83 サービス導入時の説明の際、可能な範囲で家族も参加している                           | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |

### E-3 地域住民等によるケースの生活支援や家屋や道路状況等の環境整備

|   |    |     |                 |
|---|----|-----|-----------------|
| 84 ゴミ出しや外出が困難な高齢者に対して、地域で助け合うことが大切であるという認識が、地域に根付いている | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 85 生活や外出が困難な高齢者に対して、地域で助け合うシステムがある                    | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 86 外出が困難な高齢者でも、移動しやすいような道が整備されている                     | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 87 外出が困難な高齢者でも外出しやすいよう、様々な施設に駐車場が完備されている              | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 88 外出が困難な高齢者でも、買い物がしやすい仕組みや環境がある                      | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 89 外出が困難な高齢者でも、病院にかかりやすい仕組みや環境がある                     | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |

### F. 【活動】集団支援を利用するための「入口」としての工夫

#### F-1 なじみの関係を応用した、集団支援活動初回利用時の丁寧な関係づくりと迅速な導入、および交通環境の整備

|  |    |     |                 |
|--|----|-----|-----------------|
| 90 ケースが初めて集団支援活動に参加する際、参加する前からなじみとなる人と事前に関わる場がある | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
|--|----|-----|-----------------|

|    |   |    |     |                 |
|----|---|----|-----|-----------------|
| 91 | ケースが初めて集団支援活動に参加する時は、必要に応じて担当者がつき、ケースが安心してその場にいられるよう、意識的に関わっている | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 92 | 集団支援活動のスタッフは、会えば自分から先に挨拶をして、なじみとなって、参加しやすくなる関わりをしている            | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 93 | 集団支援活動のスタッフは、新規参加者に対して、仲間づくりを進めるために意識的に関わっている                   | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 94 | 移動手段がないことによって集団支援活動に参加できない場合、集団支援活動の担当者と個別に検討している               | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |

## F-2 継続的に集団支援活動に参加できる工夫

|    |   |    |     |                 |
|----|---|----|-----|-----------------|
| 95 | 集団支援活動を継続的に利用しているケースに対して、支援メンバーは、途中脱落の可能性を定期的にアセスメントし、継続的な支援を行っている                              | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 96 | ケースが集団支援活動に欠席された時、支援メンバーは当日又は後日に声をかけている   | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 97 | 集団支援活動の継続的な利用が難しいケースに対しては、支援メンバーや「なじみの関係」を担っている参加者をむやみに変更せず、安定した関係性の中で支援するなど、ケースとの関係づくりを大切にしている | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 98 | 集団支援活動の継続的な利用が難しいケースに対して、支援メンバーや「なじみの関係」を担っている参加者は、ケースのペースに合わせた丁寧な関わりを行っている                     | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |

## G. 【活動】生活の領域と人との関わりの範囲の、更なる拡大

### G-1 集団支援活動以外の交流の場の設定、「楽しい経験」を強化する関わり、収入を伴う社会活動

|     |   |    |     |                 |
|-----|---|----|-----|-----------------|
| 99  | 住民による自主活動が、地域のどこでどのようなことが行われているかについて、地域全体に周知している        | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 100 | 住民による自主活動を体験する機会がある                                     | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 101 | 直接参加しなくても、目的がなくても、その場にいるだけでも良い、ゆるいつながりができる場がある 例) カフェなど | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 102 | 参加した高齢者が、楽しいと思えた体験を話してもらう場がある                           | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |

|     |                                       |    |     |                 |
|-----|---------------------------------------|----|-----|-----------------|
| 103 | 高齢者に、どのようなことをやりたい又は参加したいのかを話してもらう場がある | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 104 | 高齢者は、地域で自分の役割を見出すことができる               | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 105 | 高齢者は、簡単な作業を担い、収入を得ることができる場がある         | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |

## H. 【急変対応】状態悪化及びハイリスク状態の人へのタイムリーな支援

### H-1 急変時の把握、迅速な報告と対応

|     |  |    |     |                 |
|-----|--|----|-----|-----------------|
| 106 | 包括は、状態悪化及びハイリスク状態にある高齢者を把握した時の対応方法を、関係機関に周知している                            | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 107 | 急変の報告を受けた際、迅速に必要な支援と連携調整が実施できる体制にある  | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 108 | 急変対応後、対応上の問題点や地域の課題等について関係機関と共有、検討する場がある                                   | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 109 | 包括は、状態が悪化している、急変状態であるとはどういう状態のことをいうのかを学ぶ研修会が、医療系以外の関係職種及びボランティア等を対象に開催している | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |

### H-2 平常時の体制整備：退院前後の療養支援、看取り、情報連携の在り方

|     |   |    |     |                 |
|-----|---|----|-----|-----------------|
| 110 | 包括は、退院前後で継続的にケアを行うため、多職種（医療・介護等）での研修会等が開催されている        | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 111 | 包括は、自宅での見取り等に関して、住民に情報提供を行っている                        | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 112 | 包括は、高齢者や支援者が看取りについて気軽に相談できる窓口を設置するなど、環境を整備している        | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 113 | 包括は、看取りに関連して、遺産相続などの経済的や宗教的等のサポートを受けられる環境を整備している      | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |
| 114 | 多職種間で日常的に情報提供等を行う際、ICT、連携パスや共通シートなどを活用し、情報連携の質を担保している | はい | いいえ | わからない・どちらともいえない |

## 基本情報及び調査票1に関する調査

### I. 貴センターの概要及びご回答者様について

1. 貴センター名

2. 開設年

3. センターの区分

基幹型地域包括支援センター 担当圏域あり ・ 基幹型地域包括支援センター 担当圏域なし ・ 地域包括支援センター

4. 担当圏域の高齢者（65歳以上）人口と高齢化率をご記入ください

担当圏域の高齢者人口

担当圏域の高齢化率

5. 配置されている方の職種について ※ご回答いただく方の所有資格ではなく、現在勤務されている地域包括支援センターで配置されている資格のご記入をお願いいたします。

保健師(看護師) ・ 社会福祉士 ・ 主任ケアマネ ・ その他

6. 5で「その他」とお答えいただいた方は職種をご入力ください。

7. 2022年10月1日現在、管轄の地域で閉じこもり状態と思われる高齢者は何人ですか。また、2021年4月から2022年3月末日（2021年度）の間で新しく把握した閉じこもり状態の高齢者は何人ですか。

2022年10月1日の閉じこもり高齢者全数

2021年4月～2022年3月末日迄、閉じこもり高齢者数新規把握人数

8. 【必須】調査結果の送付希望

希望する ・ 希望しない

### II. 上記、プログラム評価に基づく、閉じこもり予防活動に関する調査票について

1. 調査票の内容に、興味がありますか。

とてもある ・ ややある ・ どちらともいえない ・ あまり興味がない ・ 全く興味がない

2. 調査票は、高齢者の閉じこもり予防に役立つと思いますか。

とてもそう思う ・ ややそう思う ・ どちらともいえない ・ あまりそう思わない ・ 全くそう思わない

3. 調査票のA・B・C領域（理念、組織計画及び地域づくり）の内容は適切だと思いますか。

とてもそう思う ・ ややそう思う ・ どちらともいえない ・ あまりそう思わない ・ 全くそう思わない

調査票のA・B・C領域（理念、組織計画及び地域づくり）の内容において、お気づきの点や新たに加えたほうがよい項目がありましたら、具体的にご記入ください。

4. 調査票のD・E・F・G・H領域（具体的な活動内容）の内容は適切だと思いますか。

とてもそう思う ・ ややそう思う ・ どちらともいえない ・ あまりそう思わない ・ 全くそう思わない

調査票のD・E・F・G・H領域（具体的な活動内容）の内容において、お気づきの点や新たに加えたほうがよい項目がありましたら、具体的にご記入ください。

5. 調査票のH領域（緊急対応）の内容は適切だと思いますか。

とてもそう思う ・ ややそう思う ・ どちらともいえない ・ あまりそう思わない ・ 全くそう思わない

調査票のH領域（緊急対応）の内容について、お気づきの点や新たに加えたほうがよい項目がありましたら、具体的にご記入ください。

6. その他、チェック票についてお気づきの点や新たに加える項目がありましたら、自由にご記入ください。

7. 【必須】最後に、私たちは、本プログラムの実施・普及に向けたプロジェクトの立ち上げを準備中です。このようなプロジェクトを立ち上げた場合、そこへのご参加についてのようにお考えですか。

1) とても興味がある ・ 2) 興味がある ・ 3) あまり興味がない ・ 4) 興味がない

※7の設問で1)～3)にご回答頂いた方【必須】

後日こちらからご連絡させて頂く場合があります。お手数ですが、『機関名・ご担当者様名』と『メールアドレス』をご記入頂きますようお願い致します。

※『機関名・ご担当者様名』は、設問1で機関名をご回答頂いている場合は、ご担当者様名のみご記入ください。

8. 今回の調査に関しまして、ご意見・ご感想などございましたら下の欄にご自由にご記入ください。

調査は以上となります。ご協力いただき本当にありがとうございました。